



E-mail: office@npo-parler.com パルレHP: http://npo-parler.com/

代表理事あいさつ 熊谷 恵美

パルレ会員のみなさま、ご支援くださるみなさま、昨年は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年号をお送りするにあたり、大変な年明けとなってしまったことを悲しく思い、能登半島地震により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方、そのご家族及び関係の皆様にご心よりお見舞ひ申し上げます。一刻も早い復興をお祈りいたします。寒い中、お湯どころか水もないといった過酷な避難所の様子を報道等で目にするたびに歯痒い思いに駆られます。

私自身も、数年前の台風の時、近隣の小学校に家族で避難した経験があります。豪雨の中、寝袋など最低限の避難用品を背負って避難所となっている体育館に行きました。直前に浜野前区長が体育館にエアコンをつけてくれたばかりでした。10月とは言えまだ蒸し暑い時期でしたので、これは助かりましたが、トイレが上階にしかなく、階段を登らなければならなかったり、他の避難した方と仕切りもなく雑魚寝と言う状況でした。実際に体験してみて、「現状の避難所は、自閉症の人をはじめ障害のある人にはとてもいられない」と感じました。品川区内に福祉避難所も設置されていますが、自閉症やその他障害特性に応じた対応が実際にどの程度可能なのかは不明です。避難所全体の質の向上と同時に障害のある人が避難できる福祉避難所の設置は当然のこと、特性に合わせた運営マニュアル

が必要ではないでしょうか。みなさまとともに声を上げていかなければならないと、痛感いたしました。

下記に「品川区要配慮者支援全体計画」から、私どもにとって必要な部分を書き出してみました。参考にいただければ幸いです。

今年が少しでも明るい年になりますよう、みなさまとともに歩んでまいりたいと存じます。一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

品川区要配慮者支援全体計画(抜粋)

支援対象者の範囲(要配慮者、避難行動要支援者)

- 愛の手帳所持者のうち1度～2度に該当する者
- 精神障害者保健福祉手帳所持者のうち1～2級に該当する者で避難誘導に支援が必要と区が判断する者

避難所の運営

- 二次避難所(通常の避難所で困難な場合)
都立品川特別支援学校等の施設管理者と区が協力し、発災に備えた準備を行う。
- 福祉避難所(二次避難所でも困難な場合)
災害協定を締結した区内社会福祉法人等と区が協力し、災害対策本部からの要請に基づき対応を行う。



ら・るーと活動報告

発達特性の理解と対応 ステップアップ講座2023 全3回 オンライン
講師：上原 芳枝氏(臨床発達心理士・NPO法人リソースone代表理事)

アンケートより

いつものようにたくさんの熱いメッセージをいただきました。今回は第2回、第3回のご感想をまとめてお送りいたします。2回、3回のキーワードは「環境刺激の処理困難」でしょうか。集団不適応の要因の多くを占めるもの、集団運営において常に頭に置くべきもの、というお話でした。

第2回 10月14日(土)

「具体的対応を導き出す支援の方程式」

■支援者の方の感想

- 先生の支援の方向がぼんやりながら理解できました。ひとつひとつは「そうそう！その通り」と納得できていたのですが、考え方の柱が十分にはわからずでしたので、少し開眼しました。色々な理論がある中で困難さを柱に支援を考えていくこと、もっと深く学びたいです。(保育士、幼稚園教諭)
- 沢山の事例がだされたので、日頃関わっている子どもの顔が浮かんできました。ひとりひとり、表出している言動は違いますが、その原因を探ると環境刺激や新情報の処理オーバーなのかもしれないと思いました。それを学んで声かけすること

は大切だと感じました。資料を読み直して、今後の仕事にいかしていきたいと思ひます。(教育機関職員)

- パニックを起こす要因、パニックの例をうかがって、いろいろな子の顔が浮かびました。小学校の特別支援教室専門員です。先生の話のを伺って支援教室の役割って何だろう？と疑問に思ひ始めています。在籍教室から抽出するという、きわめて目立つ支援であること。指導の目的が「教室に適応すること」であること。どちらも本当にその子のためになっているとは思ひなくなっています。そして「支援」は本来の職務ではないのですが、直接子供と触れ合う機会が多いので、日々の自分の支援方法を振り返り、納得したり反省したりの2時間半でした。(支援員・幼・保・学校)

P2に続く↓

●子どもの脳機能に合わせた関わり、ということで、10歳までは余計なことをしないで、成熟を待つ事自体が支援であるということが、とても新鮮かつ「そうだよ、それでいいんだよ」と気持ち強く持ち直す機会になりました。

「その子本来のペースでの育ち(脳の成熟)」を保証する。そのために、困難の背景を脳機能視点の要因から理解し、支援の方向性を打ち出す。今日お話し頂いた範囲ではその子が扱える程度の情報量・質に、情報を整えるという印象でした。(後略)

(心理士、福祉機関職員、医療機関職員)

●具体例を聞きながらお子さんや先生方が浮かび、「今はこの対応で良かったんだ」「あ～あれは私の支援失敗で後手になったんだ」など今までの支援を振り返る貴重な時間となりました。前回は今回も「繰り返しは支援ではない」という言葉が刺さりました。次回具体的に学べるので楽しみです。上原先生の講演で説明力も学ばせていただいています。「事を起こさせない設定の支援」「目立たない支援」を実践し、広げていきたいです。(福祉機関職員、保育所等訪問支援員)

第3回 11月4日(土)

「集団における理にかなった支援の実践」

■支援者の方の感想

●環境刺激の処理困難がそもそもの要因であるという概念がためになりました。あとは情緒的に考えず、その場の雰囲気や切り替えると言うことも今度やってみようと思います。(児童発達・放デイ職員)

●従来の考え方とは全く違う支援の考え方だったので、一回目は「？」のみでした。受講していくうちになんとなくですが、頭に入っていくような感覚があり、連続講座の意味を理解しました。先生ご自身が明るく、お話も楽しいので、受講した後、気持ちが上がっています。また支援を積み重ねていきたいです。(教育機関職員)

●脳機能ということで、なかなか難しい点がありましたが、聞きながらこんなことかなということが分かってきました。今、小学校の先生が休職になったり手がいなくなったりと、私が見ている地域でも大変な状況があります。先生のお話を参考にして、日々仕事をしていきたいです。3回にわたりありがとうございました。(教育機関職員)

●とてもわかりやすく、実際のエピソードも加えてお話をいただき、参考になりました。すべては無理ですけれども、少しでも現場に落としていけたらなと思っています！ わかってもらったとい

う実感が大切ということが、強く印象に残りました。味方であることもそうですし、健常児も障がい児もすべて一緒だと思って聴きました。言葉少なめに、押しつけず圧かけず、ともにすべの子にやっていきたいです。

(保育士、幼稚園教諭)

●私は旧来の保育教育観にどっぷり浸かっており、「10歳までは(事なかれ対応)の目立たない支援」と真逆の環境刺激そのものを増長する支援を行っていた、と気づかされました。とはいえ、絶妙なタイミングを自分が計算できるとは思えませんが、甘やかし、声掛けの多さ、目を見て話す圧等、すぐ改善できる場所もあり、まずは自分のできる範囲で講義3回の学びを活かしていきます。何より、子どもたちが自分を卑下することなく心の核を育てる姿勢が素晴らしいです。(福祉機関職員)

●これまで、ADHDはこんな特徴、自閉症はこんな特徴などと理解して、現場で支援をしてきましたが、障害の種類ではなく、子どもごとによく観察をして、どのような要因が環境刺激を与え、処理困難となって爆風を浴びパニックになるのか、そうならないための支援を行うことが重要との認識をいたしました。

つい解決策を教えていただこうと思いがちですが、その子どもにとって、環境刺激の要因が、新情報の処理困難なのか、時間、場所など、いろんな要因があり、結局のところ、その子どもをよく知っている、先生や支援者などの適切な判断での対応ということになるように聴講しました。(支援員・幼・保・学校)

■保護者の方の感想

●適切な距離感は大切という言葉は、みんなに知ってもらいたいと思いました。発達特性のある不登校の子供に対して、低学年だと親がかかわることが多く、距離感がつかみにくくて、お互いに辛くなる時がたくさんあります。今思うと、同じようなご家庭の中にはいつも子供に注意ばかりしているお母さんが多いなと感じました。

私はいつからか無意識のうちに距離が近い時間を減らしていました。それは私が疲れてしまうからかもしれませんが、その方が娘が落ち着いて課題に取り組めているように感じたからです。距離を置くことに罪悪感を抱いていた時期がありましたが、先生の講義と娘の様子から、これで良かったのかと自信がもてました。



10月～12月のら・るーと本人支援活動

個別活動

ソーシャルクラブ



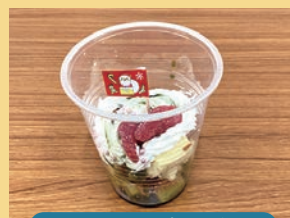
ハロウィンお菓子デコレーション



靴下染め



染め物体験(巾着)



クリスマスパフェ作り

2023年度第3回啓発講演会 12月9日 オンライン
ペアレント・トレーニングに学ぶ 発達特性のある子への支援
講師：中田 洋二郎氏（立正大学名誉教授・日本ペアレント・トレーニング研究会会長）

アンケートより



ペアトレの効果として期待できる、ポジティブな親子関係の構築や改善は、保護者の支援また子どもの自我の健やかな成長に繋がります。本講演会では、家族と支援者の連携についても考えました。中田先生は、前回パルレ学習会（主にインストラクター向け）に続いて2回目のご登壇。理論的でありながら優しく穏やかな先生の語り口は、参加者の心に深くしみ込んだものと感じました。中田先生はまた、講演中に回答できなかった質問にも答えたいと、後日文書で回答を下さり、メールで参加者の皆様にお送りしました。中田先生ありがとうございました。

■ご家族の方の感想

- 思春期に入り、なかなか思うようにコミュニケーションが取りづらくなっていたので、勉強になりました。
- 視聴出来て良かったです。特性のある子の子育ては本当に大変で辛いことも多いですが、褒めることで少しずつでも自己肯定感が上がって欲しいと思います。
- ペアトレと子どもに対する支援、褒めることを丁寧に説明いただき重要さや、やり方がよくわかりました。まさに小1の息子がADHDで学校や家庭での関わりに、行き詰まっていたところでした。
- はじめて参加させていただきましたが、これから家庭で使っていきたい考え方やスキルをたくさんお話しくださり大変有意義な講義でした。先生のお話しのトーンも穏やかで講義がより心に残りました。何度も読み返したい資料もご用意いただき感謝いたします。
- おそらく子供からすると「口を開けば文句ばかり言う親」になっていたと思うので、もっとできていることに注目して子供に伝えていこうと思います。25%ルール、今日から早速実践してみようと思いました。
- 中田先生の講義を初めて拝聴しましたが、わかりやすく、いままです疑問に思っていたこと（障害と特性の言葉のことなど）も、解決の糸口が見えたりして大変よかったです。最後の質問にもありましたとおり、ほめても反応しない、嬉しそうでない子どもをみて、「何も触れない方がいいのかな」とも思っていた時期だったので、もっとほめ方や着眼点など勉強して、ほめ続けたいと思います。
- 療育という言葉を知らず、発達障害の子を引きこもりにしてしまった後悔が消えません。何が間違っていたのか確認たく、本日の講演を拝聴しました。ネガティブな感情でいましたが、できていたこともあったので少し前向きになれました。今日のお話を踏まえうえで、大人の発達障害に何をすべきか考えてゆきたいです。

■支援者の方の感想

- 一般就労ながら手帳を取得している社員がいますので支援をしております。成人しており、ご家庭との連携が難しいところですが、とても参考になりました。（企業在籍型ジョブコーチ）

- ほめる目的は、自分にもできている行動があるのだと子ども自身に理解させるためだというお話が心に残りました。今回お聞きした内容を自身の子育てに役立てたり、支援している保護者に伝えたりしていきたいです。（福祉）
- 先生の癒しのお声を聴きながら、先生のペアトレを受講できる方は幸せだなあと思いました。子どもの特性理解や親への労いだけではなく、確たる理論に基づいたペアトレであると感じました。だからこそ6回でも実施できるのかなあと。6回で実施するにはたくさん工夫と知識が必要だと改めて感じました。現在10回で実施することが多いのですが、6回での要望の高まりも感じています。精進してまいります。（家族・ペアレントトレーニング・トレーナー）
- 公立学校の中での支援者です。今回の先生のお話は、私には腑に落ちる内容だったのですが、学校側が要求することが、子どもの実態に見合わないことに日々ストレスを感じています。現職の教職員、特に管理職に向けて意識が変わるような研修をしていただきたいと強く思います。（教育）
- 行動に注目するということや、ほめることについて、具体的にわかりやすく説明していただき、これからの学校現場で生かしていきたいと思いました。特性のあるお子さんが増えていると感じていますが、保護者と連携することが難しいケースもあります。その点も今後は教えていただきたいと思います。（教育）
- ほめることで良い行動をふやす、無視する事で悪い行動を減らす、これは分かっていたつもりですが、ほめることで、お子さんの自尊心があがると解釈していました。先生が具体的に、子ども自身が、自分は褒められていい存在なんだ、価値のある人間なんだと思えるようになっていたのが印象的です。ステップを踏んで自尊心の育ちに繋がるんだと思いました。また最近、「非行歴や虐待歴のある人の未成年時期の育ち」のアンケートを見る機会がありました。被虐待歴の経験が多いこと他に、親から褒められた経験がない、「死ぬ」「生まれてこなかったらよかったのに」などの言葉をぶつけられた経験がある、などがありました。褒められる経験は、発達障害だけでなく全てのお子さんには必要だと実感しました。親御さんも気を張らずに子育てできるように願います。（福祉）

2023年度ペアレント・トレーニング水曜講座 9月13日~11月22日
(フォローアップ12月20日) オンライン 講師：中田 洋二郎氏



忙しいなかの難しい子育て、そして少しでも親子関係を改善したいと願っての講座受講。みなさまの声をお聞きして、その努力に胸を打たれます。プログラムの実践は、なかなかハードですが、2週間ごとの中田先生の優しく穏やかで適切なフォローがみなさまの励みになったものと実感いたしました。



パルレ活動報告

子育てピアトーク

「学校との向き合い方」 12月2日(土) 大井町事業所

参加者4名、学校生活の悩みや心配ごとなど、お話は尽きないようでした。

■参加者のご感想

- 色々な話が聞けて良かったです。また参加したいです。
- 同じ立場の共有の悩みを話せて良かったです。また、話をしてストレス解消でも良いと思います。自分ひとりと孤独感を感じますがこういう場があってありがたいです。



●不登校になったお子さんにどのような支援をしたことがあるか。又はどのような施設があるかを知りたい。



▶次回は3月30日(土)14:00~15:30
トークテーマは「不登校」です。



今後の予定

パルレ会員 は、パルレの会員の方限定です。

要申込 は、申込が必要です。

★は、どなたでも参加できます。

申込先メール: moushikomi@npo-parler.com

【パルレ】

予定が変更になる場合があります。パルレMLでご確認を。

■パルレヨガ 大井町事業所

パルレ会員 **要申込**

2月3日(土)・3月2日(土)・4月6日(土)

14:00~15:30

◇講師:三澤 美奈氏(ヨガセラピスト) ※初回無料

◇参加費:各回 大人1名 1,000円または家族で2,000円

■パルレで話そう ボランティアセンター 住居棟 1003号室

3月13日(水) 13:30~15:30

パルレ会員 **要申込**

◇参加費無料

※MLでお知らせいたしましたように、今年度は隔月で実施いたします。突然の変更で申しわけありません。

■子育てピアトーク 大井町事業所

要申込

3月30日(土) 14:00~15:30

※**パルレ会員優先**

◇会員無料、非会員500円

■パルレ学習会

★ **要申込**

「あらためて考える『療育』って何だろう?Part2」

発達障害の子どもたちにとって、療育はどのような意味を持つのでしょうか。彼らの健康的な成長を支えるために必要な療育とは?とときどき立ち止まって考えたい、大切なこと。本田先生にお話を伺います。パルレでは、2021年にも同テーマで先生にご登壇いただきました。プレイバックのご要望にお応えし、part2を開催します。後半の質疑応答には、もはやユニットと言っても過言ではない植田心理士も登場。あらためて『療育』をたっぷり考える 2時間、ぜひご参加ください。

3月9日(土) 14:00~16:00

◇講師:本田 秀夫氏(信州大学医学部子ども心の発達医学教室教授)

◇会場:オンラインZOOMウェビナー(後日配信あり)

◇参加費:1000円 ※パルレ会員は無料。別途ご案内します

◇定員:当日参加300名(後日配信つき) 後日配信 無制限

お申込:Peatixよりチケットをご購入下さい

<https://20240309parler.peatix.com>

【よかりんく】

大井町事業所

■ボードゲームクラブ 第1火曜日

■Switchクラブ 第2、第4水曜日

将棋倶楽部 第3火曜日 ■鉄道クラブ 第3水曜日

(活動は、今後の感染状況により、変更になることがあります)

寄付のお願い

「よかりんく」は、発達特性のある青年の余暇支援活動です。青年の支援は就労目的が多いのですが、パルレは、「余暇をもっと大切に」と考えております。東京都保健福祉財団の助成金で開始しましたが、現在は助成期間が終了しております。

よかりんく継続のため、みなさまからの暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。HPよりご寄付を受け付けております。

寄付連絡フォーム
QRコード▶



【ら・るーと】

■2023年度 第4回啓発講演会「IDEA PROJECT について~誰も排除しない労働社会を目指して~」 **要申込**

就労には、収入を得る以外にも、社会と継続的につながることで孤立を防ぎ心の健康を保つ機能があります。一方、働きたくても、一般的な雇用形態では継続的な就労が難しい方々もおられます。超短時間雇用モデル『IDEA(アイディア)プロジェクト』は、多様な人々がそれぞれの事情に合わせ、いきいきと働くことができる仕組みとして、東大先端研を中心に開発されました。ら・るーとでは、2017年にも、近藤先生をお招きし、IDEAプロジェクトをご紹介いただいています。それから6年、地域社会に実装されたIDEAプロジェクトの現在についてお話しいたします。

2月15日(木) 19:00~20:30

◇講師:近藤 武夫氏(東京大学先端科学技術研究センター教授)

◇会場:オンライン会議室Zoom ※後日配信は行いません

◇資料代:無料 ◇定員:200人(先着順)

